

伏せて語らず、紙面の穴埋めに用いてようやくその一端を伺い知ることが出来ました。いともつゝまじやかに、而も淡々と発表しておられます。之亦何とますがすがしい清涼剤ではありませんか。古き歴史を訪ねることもさることながら、四十年のそのかみ、日台師弟の生きた新しい歴史の一頁を今改めて知り、心ほのぼのと温まる思いがしたのは私一人ではなかった事と思ひます。

### 其の三

扇の要に高木会長を、その左右にこの両先生を配して、羽柴幹事亡きあと微動だにすることなく、日進月歩の一端をたどっている我が佐伯史談会、県下に其の名をうたわれているのもむべるかなと、己の会に対する非協力は棚上げにしても何とも嬉しい。

その会誌を「毎号毎号労をいとわず運んで下さる人、西八幡地区は比較的会員が少なく、為に両地区を合せて一括配布してくれている人、それは誰あるう羽木衛守氏その人です。お年であるのに自転車ですもいつも変わらぬ温容で届けてくれます。「なあに仕事がないからこのくらい」と云って下さるが仲々出来ることではあり

ません。そして、史談会の諸行事等には進んで地区の代表として務めて下さっています。有難いことです。他地区にも第二、第三の羽木さんが居られることでしょう。史談会を支える大きな大きな土台の役をして下さっています。柱丈太くても土台がもろければ所詮家は長もちしないでありましょう。

### 雑詠

岩田トヨ子

(会員・佐伯市長良)

北風はきびしく吹けどどじょう豆今もさかりと実るたくましき

佐賀関東洋一の煙突も煙をはかず淋しかりける

別府湾波静かにて見はるかすかなたこなたに船の行く見ゆ

観光客の声にぎやかな金山に昔をしのび感慨にふける